

日本生態学会大会実施形式のアンケート結果 別紙

Q17 今後の生態学会大会について要望があればお書き下さい[任意] (Please tell us your requests, if any, for future ESJ Annual Meetings [optional].206 件の回答

※個人が特定できる回答については編集または除外しています。

| |
|---|
| 学生の発表機会を作るためにも、地区大会の拡充などをご検討いただけると幸いです。 |
| オンサイトにしてください |
| ハイブリッド型にした際に、自分は会場まで行ったのに他の参加者のほとんどがオンライン参加だったとなってしまうと結局オンライン参加にすればよかったとなってしまうそうです。 |
| 毎年楽しみに参加しています。今回も大勢の方々のおかげでとても充実した大会になりました。一方で、やはりオンサイトと比べると出会いや会話が少なかったのも事実です。出来るだけオンサイトになるようにご尽力頂けると大変有難いです（もちろん可能な範囲で結構です）。 |
| 民間に努める立場からすると、これまでの3月開催（対面形式）は参加のハードルが高かった。オンラインになったことにより、業務をしつつ視聴といった対応をとれるようになったため参加のハードルが低くなった。 対面形式であれば、年度末を避けた開催が望ましい。オンラインであればいつでも構わない。大会運営準備等々、大変お疲れ様でした。 |
| 大会運営にご尽力いただきありがとうございます。企画委員会および大会実行委員会は普段でも多忙な上に、初めてのオンライン大会で様々なご苦勞があったかと思えます。 今回の大会で気づいたのが、オンラインでの自由集会および土日の集会・講演には家族持ちは全く参加出来ないことです。オンサイトでの大会では、出張のため時間の制限無く大会に参加できますが、オンラインでは日常の中で大会があるため、夕方以降および土日にパソコンに向かうのは家族の理解が得られませんでした。 一方で、特にポスター発表ではオンサイトではその場に居合わせた人たちの意見しか聞けませんが、今回は掲示板形式の質疑応答のため多くの方の意見と発表者との議論を拝見することができて、勉強になりました。 |
| 今回は大会をご準備して下さりありがとうございました。オンライン大会は最初はどうなるかと思いましたが、思いの外満足感がありました（特に子育て世代なので大変有難かったです）。画面越しの方が通常大会の講演より見やすい（聴きやすい）ので、非常に良かったです。ただ一方で、ポスター発表に関しては、サムネイルのようにポスターの一覧が無いとやや見づらい（いち |

いちポスターをダウンロードしないといけないため) ように思います。

個人的には、今回のオンライン大会は大成功のように思います。一方で、これだけ質の高いオンライン大会が開催されてしまうと、物理的な移動を伴うオンサイト開催にどれだけの意義があるのか正直分からなくなりました。今後もオンラインを併用していくという学会の方向性は大賛成です。

オンラインだと身体的な負担が少なく、いろいろな会場の発表を聞くことが出来て良いと思いましたが、議論や交流は全くできず、ポスター発表などはオンサイトが良いと思いました。

岡山大会大変お疲れ様でした。どうもありがとうございました。大変楽しむことができました。公開講演会も無事に終わりほっとしております。

いつオンサイトに復帰できるかは不透明ですが、微力ながらご協力できることがあればと思います。またいくつか企画も仲間うちで検討していますのでまた私も委員であります将来計画委員会などを通じて検討をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

日程の短縮

僕にとって、初めてのオンラインでの学会でした。

意外とオンラインならではの良さがたくさんありました。

1. ポスター発表で、コアタイム以外でもやり取りができる。
2. ポスターをじっくり見られる。オンサイトだと、後ろの人のじゃまにならないように配慮しないといけない。また、わからない箇所をパソコンで調べもって見られるのも良し。
3. 部屋移動が無いので、口頭発表を聞きたいものを聞ける。例年、生態学会の会場がとても大きいので、遠い部屋での発表を聞きにいけないことが多い。
4. 子供が居ても簡単に参加できる。
5. 飲み会がタダ (笑)

ということで、コロナ収束後も、オンライン併用型にさせていただけると嬉しいです。

長年、年度末の仕事の忙しさの中でも、無理をして大会に参加してきましたが、オンラインになった結果、業務に忙殺され参加しませんでした。オンサイトの方が業務と切り離して大会に集中できるので、ありがたいです。

オンラインではどうしても深いやりとりが難しい。コロナ終息したら、これまでのようなオンサイトに戻して欲しい。

オンラインでの開催が望ましい

コロナ禍で多くの学生が経済的に困窮していることをご理解いただきたく、オンライン開催にし、参加費及び会費の費用を減らしていただけましたら助かります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

オンラインにする場合、ポスター発表は、懇親会のシステムをつかうのがオンサイトの雰囲気にかかづいていいのではないかとおもいました。

オンラインのポスターセッションに REMO や Spatial Chat のようなシステムを導入してほしい。今回の形式ではポスターセッションの良さが殆どない。

発表の形態としては、ポスターこそオンサイトでやることに価値があるように感じます。防疫上、難しいのはわかりますが。

大会を運営されている全ての皆さんに敬意を表します

ポスター発表の区分や評価方法について再検討いただきたいです。
区分によって発表数や発表可能な範囲に偏りがあるように感じます。動物植物相互作用を送粉と植食に分けるなど、区分の再検討をお願いしたいです。
また例年、「優秀賞該当なし」となる区分があります。発表者としては「他の区分と比べても優秀ではない発表だったのか…」と精神的に厳しい部分があります。是非とも該当なしが出ないようなシステムの構築をご検討いただきたいです。

オンサイトとオンラインの両方の開催能力があるといいので、1年おきに交互に行う。オンサイトは隔年になるので地区会の負担が減る。オンラインは企画委員会が中心になって行う。
オンラインでは、シンポや口頭発表などレクチャー形式に重点を置く。オンサイトでは、ポスター発表や、交流などに重点を置く。

最初に、お礼を述べさせていただきます。今年度の大会の運営、ありがとうございました。
さて、今後の大会についてです。積極的にオンラインを導入し、大会期間の短縮化を図っていただけないでしょうか。

年度末の時期に、5から6日間の出張をすることが、大学教員である私にとっては、難しくなってきました。今年度、オンラインでの大会に参加し、学内の仕事と学会をハイブリッドで遂行できるオンライン学会の利便性に強く引かれました。もちろん、対面での交流が失われてしまったのは残念でしたが、こと学術面での交流に関しては、オンラインでも実施の方法を工夫すれば、議論の機会を作ることは可能のように感じました。また、ポスター自体をじっくり見るという点では、オンラインの方が遥かに優れていると強く思いました。さらに、シンポジウムを含む口頭発表でも、スライドの見やすさに関しては、オンラインの優位性が目立ちました。以上を勘案し、現在の大会での研究発表の部分の大半をオンライン化し、大会期間の短縮をしていただきたく存じます。以上。

オンライン重視でお願いします。

オンライン開催にて、より多くの発表などを聴講できたし、旅費がかからなくてよかったので、今後もオンラインでの開催を望みます。

参加費が高くなってもいいので、ポスター発表を含め全てオンサイト（従来の形式）での実施をご検討ください。ポスター発表は研究者間のコミュニケーションが最も取りやすく、学生会員やPDの就職活動の場となります。With コロナのルールやマナーを周知し、距離を開けたポスター掲示、半野外（体育館などで換気）、小声での会話、飲酒を伴う会合（2次会）の自粛で開催して欲しいです。スポーツなどの大規模イベントが1万人まで開催可能だとしたら、学会を自粛しすぎる必要はないのではないのでしょうか。

confitだとポスターを流し見しづらい、confitのUIが痒い所に手が届かない微妙なつくり、ポスター発表にパワポそのまま貼り付けている演者が多数いたが、もはや要約ではなくデータ全乗せになっていたので、ポスターとしての体裁は守るべきだ。

オンラインの場合、今より会期を長くしてもよいと思う。また、ポスター発表の様式は改善の余地が大きいと感じました。

このようにオープンな議論が行われるのはとてもありがたいことだと思いました。ぜひこのような形での情報発信や、一般会員が発言できるような機会を継続的に設けていただければと思います。

オンラインでの大会参加の可能性を残しておくことは、多様な事情（育児や介護）で現地に赴くことが困難な学会員の可能性を広げる意味で、良いことだと思います。

オンサイトで様々な地域で学会が開催されると、学会で出会う研究者との交流や、その地域の大学の研究室に訪問しやすくなるなど、研究活動の幅が広がる。一方で、オンラインで学会が開催されると、オンサイトでは参加できなかった日程や時間帯に参加できることや、新型コロナの感染防止にもつながるため、現状では、オンラインが望ましいと考えている。

ポスターの発表が見にくかった。

オンサイトでの楽しみをいかにオンラインで「再現」するかではなくて、オンラインじゃないとできない面白い企画を考えると満足度高く楽しめるように思います。

個人的にはオンサイト開催に強い魅力を感じるが、子育てや介護・遠隔地に住んでいるなどの事情でオンラインのほうが好ましい参加者もいると思う。多様な背景を持つ立場を尊重して欲しい。いっぽう、大会運営の負担軽減も考えて欲しい。一般参加費を大幅に値上げしてでも外注できる部分は外注すべきと考えます。

ポスター発表もオンサイトで極力行ってほしいです。もしくは、オンラインでも発表者と閲覧者の交流がすぐできるようなものにしてほしいです。

小さな子供のいる研究者です。オンラインになったことで出張せずとも大会に参加できることは大きなメリットでした。ポスター発表は、閲覧者にとっては、じっくり内容を把握してから質問できること、人垣に阻まれて質問を遠慮してしまうということが起こらない、コアタイムが（ほぼ）なく余裕をもってやりとりできる、ということでオンライン形式と相性のよい発表形式であるということを改めて認識しました。

口頭発表や各種の集會も、座長や運営の方々の努力によって、オンサイトと遜色なく議論が進んでいたように思います。

唯一オンラインではダメだと思ったのが懇親会でした。夕方の時間帯は家事を回さなければならず、参加できませんでした。子供が寝てから二次会相当の会に参加しようかとも思いましたが、オンライン空間での会場の雰囲気をつかめず、風呂上がり、部屋着で化粧も落とした状態では、カメラとマイクをONにして突っ込んでいく勇気も無く断念しました（アバター使えば良かったか?）。

個人的な事情を含んでいて申し訳ありませんが、それでも得るものは多く、今後も参加したいと思える大会でした。要望ではなく、感想です。

オンライン大会に参加して思うことは、旅費がかからない、時間が節約できるといったメリットもある反面、特に平日は日常業務に忙殺されてしまい、講演をおちついて視聴できなかった。従って基本現地参加できるようになれば、元のスタイルでの実施が望ましいと考える。しばらくオンサイト・オンラインを併用し、併用によるメリットデメリットを明らかにする試みも一方で必要でしょう。

共著である他人の研究データを発表する際に正しく引用を引いていない例が教員レベルの発表でも見られたので、そのような基準を学会としてもしっかりと守るようすべき（学生への影響が懸念されるので、そういった意味での指導も含めて）。

環境アセス業界の人間の参加がしやすくなるよう、開催時期を年度末以外にしてほしいです。

子供が小さいので、ここ数年学会参加ができていませんでした。今回、オンラインになったことで、自身の発表もでき、聞きたい講演も（土日、夜間以外は）聴けて、私にとってはラッキーでした。一部でも良いので、オンラインでの参加が続くことを希望します。

ハイブリッドはオンライン参加すると会場の声が聞きづらいなど質が低下するためやめてほしい。

オンラインツールが発展したので、年1回5日間通しでの開催という形も検討し直す面があると思う。季節ごとに1日開催をし、そのうち1回だけオフラインで交流を主にした大会にするなどの案もアリだと思う。

今回はポスター発表を見る暇がなく、最終日の夜にまとめて見ることになってしまった。

妻がコンサルなので3月開催は厳しい。

オンサイトを続ける方向で会期をずらすのであれば小学校などの長期休みを検討して欲しい。オンラインであれば今回の休憩室でポスター発表がしたかった。また、会期中は常に開けてもらえると良かったと思う。同時に開催されている他の学会にも参加したが、生態学会はトラブルも少なく、大成功だったと思う。運営のみなさま、本当にお疲れさまでした。学会楽しかったです。

シンポジウム等の口頭発表についてはオンラインならではの良さもありましたが、オンラインでのポスター発表は、コミュニケーションの量も少なくなり、一覧性が悪くなった結果、発表の意義が失われたように思います。

学会大会というのは人と人とのナマでの議論があってこそだと思いますので、感染拡大対策を講じるなどして、可能な限り、オンサイト開催でお願いできればありがたいです。

7地区平等の持ち回りは、地区によってPI会員の数が違うので不公平。一巡する間に関東地区3回、近畿地区2回、他地区1回くらいにしてほしい。

学会終了直後に関わらずこのようなアンケートを実施していただきありがとうございます。

コロナ禍にかかわらないのであれば、ポスターこそオンサイトがいいのではと思いました。今学会参加してみて、シンポジウム、フォーラム、自由集会などは想像以上に快適でした。シンポジウム内で一部の講演だけ聞いて他のシンポジウムへ移動も気軽でした。講演の進行と無関係にコメント欄で質疑応答できるのも面白かったです。むしろオンサイトだと席に座れなかったりします。オンサイトにはもう戻りたくないくらいです。

一方で十分議論できないと感じたのはポスターでした。zoomで説明してくださった方もいましたが、コメント欄のみの対応の方も多く、不満足な質疑にならざるを得ず残念でした。会場で偶然顔を合わせた参加者と情報交換することも重要と思います。大規模な生態学会ならではないかと思っていますので、学生さんにも経験して欲しいです。ポスターはオンサイト、口頭系の講演はオンラインがいいと思います。コロナ禍では無理でしょうけど…

口頭発表形式の催し（口頭発表、シンポジウム、フォーラム、受賞講演会、自由集会）については、オンラインとオンサイトでほとんど変わらない満足度が得られた。一方、ポスター発表に関しては、インターフェースに改善の余地が多数あり、満足度がオンサイトよりもかなり低かった。次年度もオンラインでの発表になる場合、ポスター発表を選択する会員は減るのではないかと強く危惧する。ポスター発表について、追加のアンケートを実施することを要望します。オン

サイトでの実施の魅力はインフォーマルな交流にあると思います。オンサイトはポスターや自由集会やフォーラムをメインにし、スケジュールを2～3日に短縮して実施してはどうでしょうか？オンサイトとオンラインの併用の場合、5日間連続とすると移動時間中にオンライン発表に参加出来なくなるため、オンサイトは3月、オンラインは11月というように2回に分けて実施した方がよいように思います。オンラインは口頭発表のみで、ポスターは発表件数を制限し（学生発表を優先）、聴講時間も2部制にしてオンサイトで開催した方がよいように思います。いずれにしても、オンライン一本化に比べて労力がかかるため、大会の要素として何を最重要視するか合意形成はとても重要と感じています。

今回のオンライン開催での運営本当にお疲れさまでした。オンラインだからこそ参加できたので、とてもありがたかったです。

一方で、シンポジウムに発表者（一講演者）側として参加した際に、質疑応答でミュートが解除されないトラブルに複数回見舞われたので、そうした点について可能であれば改善いただけると幸いです。

大規模な学会の運営本当にお大変かと存じますが、今回の学会参加でもコロナ禍でも貴重な機会をいただき、とても刺激的でした。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

今回のオンライン大会が思った以上に充実しており大変ありがたかったです。私は未就学児2名の子育て中でしばらく本学会に参加できませんでしたが、今回数年ぶりに参加することができました。仕事や育児の合間での参加が可能、ポスター発表での質疑応答などよかった点は多数ありました。運営してくださった皆様へこころから感謝申し上げます。

今回のモアイのように、技術について相談できる場があると活用したい。

口頭発表や自由集会、シンポジウム等はオンラインでの開催がとても快適に感じました。一方で、ポスター発表はオンサイトの時に比べて、ポスターを見て回るのが大変でした。ただ、他の方々のコメントを覗けるのは良いなと感じました。

オンライン実施の場合は、様々な領域で一斉に大会を実施する意義が（コスト以外では）あまり感じられない。複数のもう少し小さい部会のような単位で、異なる時期に開催された方が参加しやすい。ただし、その場合は運営上の負担の増加につながるため運営の省力化などとセットにする必要があると思う。

生態学の最新の知見を実際の現場（保全対策や政策決定）にも反映させるために、大会が実務者や技術者の学び直しの場としての役割も担えるように。またこれら実務者や技術者が参加しやすい大会になることは、卒業に伴う学生の退会率の減少や技術者の新規入会による「学会員の増加」が見込めたり、学会員にとっての「応用研究の機会」や「キャリアパス」が広がったり、一般社会における「生物多様性の主流化」や「生態学のすそ野を広げる」ことにもつながったりする利点がありますので、前向きにご検討いただけますと幸いです。

またオンラインでのプログラムは、繁忙期の3月であっても、上記の実務者や技術者がスポット的に参加しやすい利点があるため、正常化したのちも、口頭やポスターのうちの一部の発表（発表の50%や30%など）をオンライン枠として残す工夫もあると思います。この一部オンライン化は、地方の在住者や旅費支給のない高校教員や高校生、子育て中や介護中で出張が制限される研究者など、学会として多様な方をサポートする姿勢を示すことにもなります。

なお、コロナ禍によるオンライン化の流れは、世界的にZoomなど新たな技術やサービスを生み出しました。さらに今後数年で、費用やシステム面でも格段に使いやすくなるように思います。そのため、次年度は無理でも、一部ハイブリッドのアイデアなどについては、検討の余地として残しておいていただけますと幸いです。

会員層、参加者層が若いことが一つの生態学会の特徴です。今後の大会についても、若い世代の意見を尊重していただければと思います。

定期的に、今回のアンケートのように会員の意見を聞いていただければ幸いです。

懇親会をどうするかが最も重要。このアンケートでは懇親会についてはあまり触れられていなかった。対面で懇親会ができないならば、対面開催する意義をあまり感じない。

座長や司会者の操作の不慣れは一部あったが、口頭発表、シンポジウム、自由集会、フォーラムなどはオンサイトよりもオンラインの方が聞きやすい面があった。一方で、ポスターは大量の文字情報から気になるポスターを抽出する労力がかかり、コアタイムもあまり機能しておらず、全体的に交流や情報交換の機会が低下した印象がある。細かい機能では、「いいね」だけでなくコメントした講演へのリンクと、自身の講演にコメントがついたら通知がいく機能が必要だと感じた。

オンライン開催となり大変な面もあったかと思いますが、各セッションの参加者数はオンサイトでの開催の時よりも多かったのではないのでしょうか？ただ、交流という面では、やはりオンサイトのほうがよいかなと思います。コロナ対策は必要ですが、となると運営は大変になるかもしれませんが、ハイブリットということになるかと思います。

初めての試みで大変な中、大会運営をありがとうございました。ハイブリッドにして、オンサイトでの規模を小さめにして、持ち回りで行きやすいようにすれば良いのではないのでしょうか。その場合、オンサイトの参加者は学生や若手を多くして、交流ができるようにすれば良いと思います。また、オンラインの場合でもシニア（定職持ち研究者）の大会参加費を多くして、学生の発表旅費を学会から出せるようにするなどできると思います。

オンラインとオンサイトの場合で、大会委員会の方々の負担がどうだったのかが気になりました。

この度は、はじめての試み且つ制約の多い中、オンラインでの学会を開催頂き有難うございました。想像以上に多くの新知見や気づきを得ることができました。交流に関しましては従来通りにはいかない部分が大きくありましたが、懇親会での会話等は比較的しっかり行うことができたので、より交流を円滑にする仕組みに繋がればと思います。学生が、所属機関外の研究者と会話のできる機会は、オンラインではオンサイト以上に自ら積極的にコンタクトしない限りは得られないものと思いますので、今回のモアイ企画のような試みが更に拡充されると大変有難いように思います。

ハイブリッド方式で、オンラインでは音質が悪い場合があり、機材や設定、講演者の理解など調整が必要と思います。

オンライン開催となる場合、プログラムの終了時刻を17時にしてほしいです。オンライン開催の場合、出張を伴わないため、通常の就業時間以降は、保育園のお迎え・帰宅後の育児があり、17時以降の大会行事に参加するのは聴講・発表ともに不可能でした。オンライン開催の場合は、大会期間を従来より伸ばすなどの措置を含め、時間割の総合的な改正を強くお願いしたいです。

ポスター発表は、コメントが残る点、落ち着いてたくさんのポスターを回れる点にオンラインの良さがあるので、今後オンサイト開催になってもオンラインと併用してほしい。（ただし、システムはLink Bizのように、自分宛の返信があったことがわかるもの、また個人的なチャットができるものにしてほしい）

地区持ち回りとなると、地区によっては会場を確保できない地区もあると思うので、会場を確保できるかどうかという基準から、地区に関係なくできるだけ多数の開催地を候補とし、それらをローテーションすると良いと思う。会場は固定せずできるだけ多くの選択肢があった方が、参加者としては面白いと思う（主催する側はたいへんだらうから、それはまたもちろん考える必要がある）。

学生参加の金額は多少高くなってもいいので、交流を重視してオンサイトで学会をしてほしい。もしくは、オンサイトのみ、オンラインのみで参加費の傾斜をかけてもいいとおもいます。

ポスター発表で色々な方々に拝聴していただき様々なコメントをいただいたのは良い点であったが、学生同士での交流は乏しかったように思える。チャット欄では雑多なコメントや感想は書きづらいため、オンラインで発表するにしても、もう少し会場のライブ感がある形式が良いと感じた。それこそovice（懇親会で利用した機能）は他の人の議論を聞いたり資料も共有できたりできるので、コアタイムだけそのような機能を使っても良いと思った。

大変多くの方々の大変なご努力によって大会が成り立っている部分があると思います。その大部分の方がいわゆるボランティアで大会運営に携わってくださっていることで、参加費などが抑えられているという認識を持っています。一方で、本当に大会運営は大変ですし、たとえ会費が多

少上がったも、お金をお支払いすべき方に対してはお支払いすることを考えてもいいのかなと思
いました。また、会期を短くしなければならぬことで、総会や授賞式、ポスターの採点などが
タイトになっているところがあると思うのですが、online で開催することで、そのあたりのタイ
トさを緩和することができたら良いのかなとも思いました。良い部分も違和感の少しあった部分
も含めて学会大会において大事な部分は本当は何だろうか考える機会が多かった大会でした。
本当にありがとうございました。

オンラインポスター発表についてです。
博物館の説明のように、あらかじめ説明を録音かつ再生するような機能をつけといて、コアタイ
ムよりもっと絞った、ディスカッションのような参加形式にすれば（オープン性も考慮して）も
う少しやりやすかったのかなと聞いていて感じました。
（コアタイム、ルームに一人～二人みたいな孤立性が目立ったと感じました）

オンライン大会が素晴らしかった。ただし問題点はまだあるので、それを改善しつつ毎年オンラ
イン大会を中心に開催してほしい（ポスター発表や人との交流を、もっと顔がわかる形で、例え
ば、今回のオンライン懇親会のようなシステムを導入するなど）。ただし、4年に1回オリンピ
ックや国際会議のようにオンサイトの大会を行えば、オンサイトの大会の意義も増すし、オンサ
イト大会がより盛り上がると思う。

オンラインならば今回の LincBiz 形式はよくできていて好印象です、コロナ禍でこれだけの仕組
みを作り上げ運営してくれた皆さまに感謝します。ポスター発表を SpatialChat でできると臨場
感を保たせやすく良かったろうと思いました。問題はいろいろあるとは思いますが、多少の値
上げ等でカバーしていくということで致し方ないのかと思っています。

年度末に長期出張が難しい地方在住者にとってオンラインはとても参加しやすい方法です。是
非、続けていただければと思います。また、現状、オンサイトで実施しているフォーラムをオン
ライン併用型で配信するのは満足度が低いので、オンラインのみにしていただくほうが良いで
す。

オンラインでのポスター発表に全く魅力を感じなかったもので、現状のやり方であればなるべく口
頭発表にしていくのが望ましいと思う。もしくは別のポスター発表の在り方を模索する。口頭発
表の座長は前の発表者ではなく、決まった人を固定した方が進行がスムーズでトラブルがない。
固定が難しいようであれば、発表者本人が座長で良いと思う。

今回、ポスター発表日（コアタイム時間帯）が職場で予め決められていた外せない任務の日で、
告知により翌日以降の時間帯に Zoom 対応するようにはしたものの、コアタイム時間帯以外に見
に来てくださる方はテーマに特にご興味のある方に限られ、リアルの会場における通りすがり閱
覧者を獲得する上では、やはりコアタイム割り振りが非常に重要な意味を持つと感じました。
開催事務負担の軽減のため、割り振りの変更希望は一切受け付けないとの趣旨は承知していま

が、発表登録時にコアタイム対応可能日をボタン選択する、といった形で実現できない物でしょうか？何らかの方法の検討を是非お願いいたします。

今回のオンラインで行われた大会は参加しやすかった。従来のように会場内を移動する必要がなく、聴講しやすかった。旅費や宿泊費などもかからなかったため、経済的にも助かった。今後もオンライン開催をしてほしい。ただ、ポスター発表が見にくく、従来よりも見る数も意見交換した回数も減った。懇親会で使った oVice のようなものでポスター発表できれば、意見交換がしやすくなりそうと思った。

懇親会やポスターはオンサイトでやってほしい。オンサイトではないと、やる意味が無いとさえ思う。大会参加費だけでなく、交通費や宿泊費もかなり負担になるので、オンライン併用の方が個々人の収入やポスト、居住地、研究費に関わらず、大会に参加したい人たちに平等に大会に参加する権利が与えられると思う。

オンサイトの良さもちろんあるが、オンラインの有用性も強く感じる今大会でした。交通費が支給されないため、とてもオンラインでの開催は有難かったです。

若手が参加しやすい大会になるのが一番重要かと思います。学生の参加費を高くせず実現できる方式を希望します。

学術交流の場としてオンラインでも十分にオンサイトと代替可能であることが分かった。しかし、人に直接会う場が必要な事例もある。懇親会などをオンサイトで行う機会を保持しつつ、大会の機能をほぼオンラインに移行されることを望む。

コロナ関係なしでも部分的にオンライン参加できる形だと参加しやすいです

表彰状は学会がオンラインでの開催であっても、届くのが遅くてもいいのでデータのみではなく、郵送でペーパーの物が欲しいです。

今後もオンラインメインの運営を続けてほしい。懇親会と公開シンポとポスター掲示のみをオフラインで実施するようにするのがよいとおもう。ポスター発表は、ポスターの前でプレゼンする動画をネットにアップロードして、いつでも見られるようにすればOK

ポスターの形式はある程度の基準を設けるべきであると思います。口頭発表のようなスライドの形式で、読んだだけでは理解しにくいものがあると感じました。

またサムネイル等を表示することで、ポスターの内容が一覧できるような形式にした方がよいと思います。いちいちポスターを見るために複数回クリックするのは面倒だと感じました。

シニア研究者はどんな事態になっても対応できると思うので、学生間の交流がなくならないような大会運営が望ましいです。シニアは最悪オンラインでもいいですが、学生はオンサイトで意見交換でき、将来の夢を膨らませられる方が生態学は盛り上がると思います。

英語口頭発表への参加者が少ない。裏で同じテーマのセッションを開かない、午後一番のセッションにする、などの工夫と配慮をしてほしい。

今回はオンラインだったことで、複数の自由集会や口頭発表を渡り歩くことができた。一方で、ポスター発表は満足感が低く、それは例年のようにポスターの間を渡り歩きながら気になったポスターの発表を聞くようなことができなかつたから（オンラインだと、何個ポスターがあるのかわかりにくいし、ポスターにアクセスするのに時間がかかるので、わざわざ興味の薄いポスターにアクセスしようと思いにくい） だと思った。

今後はこのようなオンラインの利点と弱点を踏まえて検討していただけたら幸いです。

年度末ということもあり、オンラインで学会を視聴していても仕事が発生したり、予定を入れられたりして、大会に集中できませんでした。私は会場参加が望ましいです。

実行委員会など一部の方に負担がかかりすぎるのは参加費を上げて良いので是正する。ボランティア頼みはやめるべき。ポスター賞などの公平性を気にしすぎて審査員の負担が大きくなっていないか検討する。全体的に長いので短くする。貴重な研究者の時間が学会運営に割かれているのを減らす手立てを真剣に考えて欲しい。

口頭はオンラインでも可だが、ポスター発表がSNS化していた。それは避けて欲しい。

今回の大会でオンラインのメリットもデメリットも身にしみて感じられ、開催の重みに改めて心より感謝申し上げます。ポスター発表は、隅々まで拡大して時間をかけて眺められたり、枚数や形の自由度の高さで研究の内容に合わせられたり、動画資料の添付を加えられたりといった恩恵を受けられました。ただ、コアタイムに各自が個別に zoom を用意することにより、発表を聞いて回るのにオンサイトより時間がかかるようになったり、そもそも zoom 内で今なにが起こっているかがわからないため、入るのが躊躇われたり、本来なら同じセッション内の「ご近所さん」な発表者間ではもっとやりとりができたはずなのに、コアタイムが被ってしまうことで逆に話することも難しくなってしまうたり、といったデメリットも大きく感じられました。自分の発表以外のコメント欄だと、返事が来たことに気づきにくいのも不便でした。生態学会の規模の大きさではとても難しいとは思いますが、ことポスター発表に限っては、2020年12月に行われた日本霊長類学会に用いられた「LinkBiz(リンクビズ)」というプラットフォームの方が、発表者としては利用しやすい気がしました。

開催都市と緩めの日程だけ決めて、メインの発表やポスターはオンラインでも懇親会やエクスカージョン、住民参加型自由集会はその都市周辺で行われる。懇親会は街コン形式。開催都市にメリットのある生態学会が望ましい。

更に、ポスターは今回の懇親会ツールのような、賑わいが可視化されるツールのほうが望ましい。ズームではその盛り上がりが見えないのが残念だ。

オンラインの場合、庁舎(職場)や家庭内からは参加できない事が多いので(出張と言う形が一番参加しやすい)出来るだけオンサイトがあって欲しい。

現状を踏まえた上で、改めて学会全体として企画が可能/検討すべき案件と、支部/地区といった比較的小さいスケールで企画が可能/検討すべき案件を整理できれば、オンラインツールの適切/最適な利用方法や、大会開催に関する望ましいスタイルが見えてくるのかもしれませんが。

いろいろ葛藤があるかと思いますが、今回大会をととても楽しめたので、めげずに大会開催を続けてください。短期間でいいのでオンサイト開催がある方がうれしいです。本当は今まで通り、地区持ち回りで開催する方が、参加する側は楽しい(多様な出張先とエクスカージョン)のですが、難しいようなら大都市部に集中するのは仕方ないかもしれません。おつかれさまでした。

オンラインの場合、zoomで会場に入るのにメールアドレスの入力が必要なところと必要でないところがあるのはややこしい。それに入力が必要なところはそれに時間がかかってしまい、少し遅れてしまうことがある。できればメールアドレスの入力が必要無い方法に統一してほしい。

コロナ禍の如何にかかわらず、オンラインの学会は情報収集には大変、便利で有り、引き続き、オンラインでも参加できる形式を検討して欲しい。

最も感染リスクが高いのは会食だと考えられるため、学会会場における三密回避を徹底したところで、会食での集団感染は回避できないと思います。したがって、感染症対策としてオンラインを取り入れる以上、オンサイトとの両立を目指すのは理念として矛盾します。オンラインで交流する方法を工夫するのが良いのではないのでしょうか?昨年前期は多くの大学がキャンパスを閉じて学生同士の交流を禁じました。それに対する社会からの批判も少なからずあった中で、教員がオンサイトの学会に参加して旧知の研究者と交流するというのが社会からどのように見られるかを考えると、現地に会員を集めるような開催方法はもう少し待っていただきたいです。

オンラインは学問ではない。やめてください。

Q16に関して、ある程度、都市が限定されるのはやむを得ないと思いますが、地方で開催すれば、その地区の学生が参加しやすくなる等の利点がありますので、できる限り多くの地区で行うのが望ましいと考えます。地区会員数にも大きな差がありますので、地区によって頻度を変えるといった工夫も必要になってきていると感じます。

オンラインは、好きな時間だけ気軽に見られる点では参加しやすかったです。特にポスターは例年混んでいて見るのを諦めがちですが、見やすかった面はありました。一方、口頭発表などの質疑には難がありました。また、誰かと話して思いがけず新しいアイデアを得るといふオンラインならではの点がオンラインでは難しいと感じました。また、オンラインでの発表はモチベーションとなりにくいように感じています（学生に発表するか聞いたが、オンラインならしないでいいとのことでした）。一方、（オンサイト・オンラインとも）開催にかかる負担が非常に大きいことは分かりますので、開催形式もそれ以外の点でも、労力との兼ね合いは検討されてもよいと思います。

地域の他の国の人々を惹きつける国際性の向上

ハイブリッド型で行うなら、現地参加者とオンライン参加者で参加費に差をつけるほうがよいように思います。

オンラインでも研究者間で情報交換や将来の研究の相談などが可能となる場があれば良いと思いました。

コロナの問題が抑えられれば、やはりオンサイトを基本とすることを希望いたします。大会の重要な目的の1つとして、対面の交流が挙げられると思います。

分野ごとの分科会を独立に（数年おきでも良いので）行うのが良いと思う。現状は生態学全般についての話題があり有意義だが、日程が長くなりやや効率が悪いと思うようになってしまった。

民間企業の人参加しやすくなると良いと思います。

大会運営ご苦労さまでした。

アンケートに関して：オンライン・オンサイトの希望参加形態を選択する際、自分の発表の有無、また発表形式がシンポジウム・自由集会あるいは口頭・ポスターなのかによって、回答が変わりますので、回答が難しかったです。

複数セッションの同時視聴はオンライン大会のメリットとなりえますので、同時視聴しやすいしくみの導入をご検討ください。

今回のオンライン大会はよく整備されていたと思います。このノウハウを引き継げると良いです。

全国大会規模でハイブリッドのセッションを複数並列で行うのは現時点でかなりハードルが高いと思います。しかし、ハイブリッドセッションのためのマイクスピーカーなどの音響設備等は今

後より整っていく可能性もあるので、来年以降のハイブリッド大会の選択肢ははじめから排除しなくても良いかと考えます。

オンラインの全国的・国際的な年次大会（たとえば3月）と、持ち回りで地区会主催の小規模なオンサイトの集まり（10月など）を併用するのも良いと思います。

現在の大会運営（学会運営も）には莫大な労力をかけていると思います。今後は業務の肥大化を防ぎ、できるだけ効率化させるような方向で検討していただければと思います。

オンラインの方が参加しやすいが、ポスターの掲示の仕方はもう少し工夫があるとよい。

オンラインで開催できたので、これまでとは違ったやり方を考える必要がある。

かなりオンラインでも何とかかなるかなと感じた今大会でした。準備委員会の皆様のご努力に頭が下がります。

ですがポスター発表時の討論や、大会参加者間の合流など、やはりオンサイトの方が利点が多いと思っています。

次回大会はハイブリッド開催で致し方ないかと思いますが、それ以降は、是非オンサイト中心の大会に戻って頂きたいと希望いたします。

多くの回答を”分からない”としました。コロナがどうなっているか分からないためです。

オンサイトとオンラインの両方の開催能力があるといいので、1年おきに交互に行う。オンサイトは隔年になるので地区会の負担が減る。オンラインは企画委員会が中心になって行う。オンラインでは、シンポや口頭発表などレクチャー形式に重点を置く。オンサイトでは、ポスター発表や、交流などに重点を置く。

運営の負担が大きいように思えます。一参加者として学会の持続可能性が心配です。

次年度の大会も楽しみにしています。

オンラインでも充実していました。ただ、学生さんのネットワーク作りはしにくかったと思います。

- ・自分が聞きたい講演をスケジュールできて良かったです。
- ・オンラインポスター発表は、発表者と話すには少し敷居が高かったです。zoomが開かれているけれど、誰もいなかったらどうしよう、逆に誰かと話し中だったらどうしよう、と不安がありました。ポスターセッションで気楽に話せる環境があると良いと思いました。
- ・ポスターのタイトルはテキストのみでしたが、小さい画像でリンクしていただけると見逃しが減るような気がします。

オンライン大会だからこそ参加できたり発表できたりという者もいるので、この機会に、隔年でオンライン大会を定着させていただきたいです

規模を縮小すべきとは言わないのですが、発表内容のある程度吟味して発表者数の制限を設けてもよいように思います。国際会議などはそのような事前審査がありますね。大会規模が非常に大きなものとなっているため、何らかの対策は必要かと思います。

年度末は業務繁忙期のため、可能であれば別時期開催ですと助かります。学会開催は本当は休みが取ればオンサイトで参加した方が臨場感があり、内容にも集中でき望ましいです。オンラインは業務の関係等オンサイトで参加できない場合やむを得ず参加ですが、日本全国いろいろなところに住んでいる人がいるので、ハイブリッド型開催がよいと思います。

ポスター発表一覧はテーマ別でなく、全体一覧が欲しい。

多様なライブイベント（ダイバーシティ）への配慮が必要そうですね

土曜日・日曜日に学会があると家をあけにくいので、オンラインでもオンサイトでも平日に開催されると嬉しい。

オンサイトでは仕事を長期に休まないと参加できないので、オンラインは継続して欲しい。

オンライン大会は、経験してみて、いろいろメリットがありました。口頭発表のスライドが明瞭に見れ、音声聞き取りやすい。ポスター発表では、効率的にポスターを見ることができる。現地会場参加にくらべ、疲労が少ない、経済的（宿泊交通費がかからない）。雑談的コミュニケーションがとりづらい面はありますが、オンラインでもいろいろな方法があるようですし、今後もオンラインを使った大会開催を希望します。

シンポジウムはもっと減らして一般講演と自由集会の比率を上げるべき。コロナが落ち着けばオンサイト重視を希望。

大学教員、フィールドが海外。春休みの2-3月は非常に貴重な海外調査時期で、大会日程によっては参加が難しい。個人的希望は、授業を1回振り替えたりすればよい10-12月が良い（ただ、多くの方が冬の2-3月が良いと考えておられるだろうことは理解している）。

今回の大会で、ポスター発表でポスター以外の資料もアップロードできたのは良かったと思います。動画のフォーマットがGIF限定でしたが、mp4など他のフォーマットもあればなお良かったです。

オンライン化は参加しやすかったです。ただし、交流、ディスカッションにハードルが高めだったかもしれません。

Q16については、大会規模の拡大で現状どのような問題が生じているのかがわからないと答えにくいです。

準備と運営、ありがとうございました。

今回のオンライン懇親会はツールが良く、悪くない感触でした。ポスター発表はやはりオンラインだと密かつ多人数との議論が難しいと感じました。

オンライン化を進めることに賛成です。その場合には、口頭発表での時間厳守と、ポスター発表での zoom 使用を含めた交流機能の強化が必要と思います。confit は基本的に良かったですが、コメントとその返信があった際に通知が欲しかったです。LINE のオープンチャットや teams など、なんらかの外部 SNS を通じたチャットを使う人はいなかったですね。

仮にコロナ禍が終わってもオンライン化を継続してほしいです。隔年でオンラインとオンサイトを行うか、3年に一度オンサイトで行うのが個人的には良いと思います。

お疲れさまでした。オンラインの良し悪しを感じる良い大会でした。ポスターや一部講演はオンラインにするなど、コロナ収束後も併用することが場所確保の問題、ポスター紙の消費などに対する環境への配慮など考えると、良いと思いました。

ポスター賞などの審査を公平に行うのは難しいと思います。たとえば、有名な研究者の指導下にある学生のテーマは周知されていて、良い評価を得やすいと思います。

ポスター賞の見直し：研究実績のある研究室所属の学生に受賞が集中しており、均衡のとれた評価とは言えないのではないかと。

ハイブリッドの案が出ることは当然ですし、大会運営委員の皆様が、貴重な時間を使って、我々がいかに交流するかを考えてくださっていること、心から感謝します。

ポスター発表するにも口頭での交流が望ましいと考えている方はたくさんいます。しかし、ポスター発表をハイブリッド式の学会の現地で行なうことは困難ではないかと感じます。なぜならば、そのための「多くのかたが口頭でポスター説明をする静かな共有スペース」が必要になる、あるいはポスター発表者はいったん会場を後にし、まわりの声が入らない環境へ物理的に足を運び、そして発表を終えてから会場に戻る、ということを経なければならぬためです。

ハイブリッドとなると形式は多様でしょうが、私自身はオンラインでのみ参加になるのが現実的なのかなと感じています。

また、オンライン開催によって、PCを手元に置いて手を動かす「実習形式」の集会在活発に起こることも期待しています。

ポスター発表でも時間を決めてweb上でリアルタイムのやりとりができるようにしてほしい。口頭発表やシンポジウムはオンラインが良いが、ポスター発表こそオンサイトでやるべき。このアンケートには、その選択肢が無く、不満があります。回答を頂きたい。

初めて参加したが、懇親会などは最初はランダムでグループ形成するような試みがないと知り合い同士で話し合ってしまうため、対策すべきと思いました。

子育て世代にとっては、オンライン学会はありがたいので、続けていただけると嬉しいです。また、キャリアに関するフォーラムや、若手会員の育成プログラム（海外の学会では、メンター制度やCVや申請書の書き方講座などがありました）の拡充も検討いただけますと幸いです。

今回のオンライン開催ではコメントによって交流できることが良かったです。特にポスター発表の場合、発表者がいなかったり他の人と会話していたり、自分の質問が満足にできないことがあったのが、今回は十分にやりとりできました。今後もオンラインとのハイブリット開催を希望しますが、全ての機能が欲しいわけではなく、オンサイトよりも便利になる機能だけを重点的に残すことも検討していただきたいと思います。

諸事情があるので難しいのかもしれませんが、オンラインでも森林学会と日程が被らないと嬉しいです。

難しく、ほとんど無理かもしれないのは重々承知ですが、今回のポスター発表の形式では活発な議論がしにくいので、なんとかポスター発表をオンサイトでできるようにしてほしいです。

I'm not sure whether it's due to the pandemic or other reasons, but the symposium and free gathering this time is too full of speeches. I would hope that every this kind of this session maintain at least one section (15min) for free discussion, and it should be separate with conclusion remarks. The time of 懇親会 of each symposium is various, the link are also hidden either in slide or chat-box. It's not so user friendly. It hard to expect each participant can well-use the time to finish what they can't discuss during the formal session.

ポスター発表の形式ですが、個別のZoomなどは入るのが敷居が高いのか、ポスター発表は閑散としていました。オンライン懇親会やZoomのブレイクアウトルームを利用してほしかったです。そうすれば、自分の隣の人とも話がしやすいですし、簡単に立ち寄りたり人だかりのポスターをみたりもできますので。

毎年毎年、大変有意義な国内及び国際学术交流の機会を設けていただき、大変ありがたく思っております。

完全なオンライン開催の場合、研究者間の交流が無いと、新たな研究の創出や、研究者のつながりを作ることが難しい（学会に参加するメリットが無い）と感じた。一方で、広い大会会場が必要であることも理解している。そのため、例えば、広い会場が必要なポスターをオンラインにし、会場の縮小を図ることはできないか？

参加費の使用内訳を明記していただければ、オンライン&オンサイト学会の参加費が高くても納得できるのではないかと思います。また、今回参加してみて、ポスター発表が最もオンラインだと通常通りにいかないと感じました。ポスターだと見に行く敷居が高いですし、「持ち時間中はただ待つだけになってしまった」と発表者から聞きました。ポスター発表を無くして口頭発表だけにしても良いではと思いました。

ポスターはオンラインだと、いつもよりゆっくりみれて、質問もしやすくて、意外と楽しめました。

オンラインは改善の余地が大きく、改善されれば招待講演など一部を除いてほとんど全てをオンラインにしても良いのではないかと思います。

In case of online meetings, it is hard to make connections, e.g. not everybody attends banquet, less posters watched. But if sessions are hold online, I have a few recommendations: 1. hold future online poster session as the banquet was held: participants can walk around in the virtual space, "see" the posters and talk with other attendees and presenters. 2. Make it possible to observe more oral video feeds at the same time, or make it easier to switch between session. It helps not to miss that special presentation you wanted to watch, and also makes browsing for an interesting presentation easier. Hybrid sessions, like oral presentations on-site and posters online, are better than making all sessions available on-site and online as well: participants participating by different ways will miss out on meeting.

基本的にオンラインをメインにしていった方が良いが、ポスター会場のように一覧でポスターそのものをざらざら見れる形になっていない（クリックしないと見れない）など、まだまだシステムの向上が必要。オンライン化によって意見交換が不活性化してはダメなのでそこを促す工夫が欲しい。一方でオンサイトを出していくならば、エクスカージョンなどその場に集まらなければできない企画を合わせて出して行って欲しい。

ESJ68 大会に参加して、口頭での講演（シンポなどすべて）はむしろオンラインの方が良いと感じた（スライドも見やすいし発表者の声も聞き取れる、荷物を持って部屋を歩いて移動する必要がない）。一方、今回のオンラインポスター発表は良いとは言えない。その場での研究に関する双方向のやり取りができなかった（掲示板ではやりにくい）。しかし、やり方やプラットフォームを変える事ができれば改善できる可能性があると感じた（良かった点をいうと、会期中ずっとポスターが見られること、ポスターサイズに制限がない、いつでも質問できること。なのでなぜ

コアタイムが必要だったのかわからない)。もう1点、オンラインの良さは会場までの旅費がかからないことであった。発表しない学生や一般参加者はいつもより気楽に参加しやすいと思った。

オンサイトでやるようないつも通りのタイムスケジュールにせず、ポスターコアタイムを設けず、あるいは口頭のみにするなどにすれば、会期も短くできてスタッフの負担が減るということにはならないだろうか？

オンライン開催には基本的に賛成です。

また、去年、今年を受賞講演が土曜日にオンラインで行われましたが、小さな子供を抱えている家庭は土日に託児がないためにほとんど聴講できません。そのため、参加者限定のオンデマンド配信を強く希望します。

大会委員会の皆様のご尽力にただただ感謝申しあげるばかりです。

公開講演会やシンポジウムなどの学会の主要なイベントにおいて、男女比を考慮して開催するように心がけてほしいです。

少なくとも今後数年はコロナ対策としてオンライン重視で行わざるを得ないのではないかと。

開催方式の判断が早くありがたかった。いずれの決断でも全員の要求は満たせないことや執行部のご努力は伝わっていると思われ、今後も難しいご判断でしょうが、早めにご決断いただけるとありがたい。

大会運営ありがとうございました。みなさまのご尽力もあり、今大会でポスター発表をさせていただくことができました。

今後の大会への要望としては、

- ・オンラインでやる場合にも発表者にフィードバックがあるようなシステムがほしい

オンライン開催で、見る側としては大変参加しやすかったのですが、発表する側としてはフィードバックや交流が少なく寂しかったです。自分のポスターの出来の問題もあると思うのですが、例えば「ポスターの前を素通りされる」という大事なフィードバックもオンライン上では得ることが難しいと感じました。再現は難しいかもしれませんが、例えば Spatial Chat や oVice 等の会場の雰囲気をつくりだせるサービスがつかえたらなあと思います。

運営お疲れ様でした。少し批判的な回答をしましたがオンライン大会であればしょうがないと思います。本当にありがとうございます。

地区の持ち回りで実施することは、色々な場所で参加できてとても楽しいと感じるが、地区会の規模によって、現場への負担が大きく異なることが問題だと感じる。

学会参加費をかなり高くしても、外部の相当の部分を委託してはどうか？

長い間他の学会員に会っていないのでオンサイト開催を強く望んでいます。現状ではオンラインでも仕方がないと思っています。難しい判断だと思いますので大会準備委員の人には同情いたします。

本当に、大変な状況の中の運営、誠にありがとうございます。どのような形であっても、ご対応に感謝と尊敬をいたしておりますし、研究を続けていられる身であれば、できる限り参加すると思います。その上で、運営をしていない身で、何も知らない無知な私の勝手な印象であり参考にはならないと思いますが、個人的には以下のように思いました。

まず、オンラインとオンサイトの同時開催は大変難しいと感じています。また生態学会では、私にとってはポスター発表が最も大きな魅力の一つであり、オンサイトに強い利点があります。よって、ポスター発表ができるほどの状況であるならオンサイトで、そうでないのならば全てオンラインで、ぐらいいも良いのかもしれないと思いました。オンラインの場合には、ポスター発表でも盛り上がるようなツールがあると良いと思いました。例えば Confit よりも LinkBiz が良いと思います（容量の問題を別にすれば、ですが）。または、今回の懇親会での Ovice や、同様の gather.townなどで、ポスター発表をすることができれば、また少し違うかなと思いました。予め状況がわかりませんので、いずれにしても非常に難しいと思いますが・・・どうぞよろしく願いいたします。

Much prefer meeting real people in person. Also, rotating between many sites increases variety because it is easier to attend conferences that are local. If the confence is in Kobe more people from near Kobe will attend. If the conference is in Sendai there will be fewer Kobe people and more people from near Sendai.

受賞公演・公開公演・シンポジウム・小集会などはオンライン。口頭発表・ポスター発表等、個人的な交流ができそうなものはオンサイト。オンラインの場合のポスター発表方法を今回の方法とは変えた方がよいとおもった。2分の説明付きのポスターを置いておく方法は見る方としては見やすかった（応動昆の方法）。

オンライン口頭は司会や質問方式も従来どおりの順番制と指名式だったので、オンサイトとあまり勝手が変わらずに親和性が高かったように思う。そして何人が発表しているかも把握でき、非常に良かったと思う。今回のオンライン口頭発表会場はオンサイトの会場よりも聴衆が全体的に多かったのではないか。さらに聴衆としても聞きたい発表が複数会場にまたがっている場合にも、オンサイトだとひどいときは建物を移動せねばならなかったのが、短時間で切り替えられるため複数の会場の行き来もしやすかった。さらにプロジェクターが暗い、スクリーンが小さい・

遠いといったオンサイト会場でよくある問題も回避できる。以上のようにオンライン口頭は非常に有効な発表方式だと思う。

一方で、オンラインポスターはどのような発表があるのか流して見ることができず、さらに逐次データをダウンロードしないと見れないので時間がかかる。さらにどの発表も質問やいいねが少なく、果たして何人に見てもらえたかもわからない。また、データのPCへのダウンロードも必然的にしやすいため阻止しにくい。その上、こちらから聴衆を呼び込むこともできない。オンサイトでの生態学会のポスターは要旨ではパッとしなくても実物を見ると素晴らしいというような発掘感や、多少できが悪くても近隣の発表に負けじと口頭での説明で挽回しようと発表する姿や議論に熱中する熱気、勢いで質問が非常に素晴らしいと思うのだが、オンラインではこれらのメリットはすべて消え去り、更に上記のようなデメリットが目立った。オンラインで行う場合はポスターをやる意義はほとんどないのではないだろうか。

個人的にはオンラインで行う場合はメインを口頭発表としたらどうかと思う。その場合は口頭発表の時間が長くなるが、移動時間もないので空白時間を作らるように各日の発表時間を長くとり、さらには会期を長くするなどして対応できるのではないか。

コロナの状況に関わらず、オンラインをうまく活用するのがよいのではないのでしょうか。特にポスター発表は、オンラインのみでよいと思います。

オンラインでのポスターは、もう少し使いやすいインターフェイスを望みます。タイトル一覧、要旨一覧、ポスターサムネイル一覧がフレキシブルに利用できるとありがたい。

発表者同士が交流できる工夫が欲しい。例えば、発表公募型のシンポジウム（企画集会）とする。シンポジウムのテーマを早めに公募。採択されたテーマごとに発表（口頭・ポスター）を公募する（よく海外の学会でやられている方式）。シンポジウムの企画者が口頭発表とポスター発表の振り分け、並び順などをアレンジする。ポスターのコアタイムや懇親会をシンポジウム企画者が自由に設定する。このようにすることで、ポスター発表や口頭発表の参加者同士の交流につながる。若手でもシンポジウムを企画運営する経験になる。

受賞者講演は1日でやるのではなく、Keynote的に毎日朝一番で流すのが良い（できればオンライン）。別途、受賞者と懇談できるようなフォーラムを企画する。また録画した発表を学会参加者以外の学会員でも閲覧できるようにする。

次年度の対策として、できそうなこと。

口頭発表は事前録画配信（大会前一週間くらい閲覧可能）。大会当日は発表テーマ毎に1時間程度の枠を設けて、ライトニングトーク（ライブ）と質疑応答を行う（海外の学会ですでに実施されている）。

ポスターはspacechatの方が交流しやすそう。懇親会と合わせ行くと良いかも。

若手の勉強会があると良い（フォーラムの枠？）。例えば、歴代受賞者や生態学会長などから「今年の1本」と称した論文紹介。様々な雑誌のエディター経験者から論文投稿のトレンドなどの紹介、ラウンドテーブル型ディスカッション。今年の学会合間にあった「夜の統計トーク（ラジオ）」はとても面白かった。

オンラインの場合、極力多くのセッションに参加できるよう、時間が重なるセッションをなるべく少なくしてほしい。事前配信、事後録画配信など、色々工夫はできるはず。セッション毎の休憩室のようなディスカッションスペースを設けて、質疑応答時間をいつも以上に確保してほしい。

ウェビナーに参加していて、誰が部屋に（聴衆も含めて）いるのか参加者側から全く見えず、普段ならできているだろう聴衆同士で「誰々の発表で話していたコレが……」といった会話ができなかった。交流の面ではオンラインはかなり不利だと実感した。懇親会に参加すればよいのだろうが、オンラインで聞いているのは対面よりもずっと疲れるので、そこまで気力が持たなくて参加できなかった。

大会サイトが非常に見やすく、スケジュール管理がしやすかった。

移動に時間がかからないのは大きな強みだった。ギリギリまで聞いて次の部屋にパッと移れたので、いろんな部屋を回ることができた。普段だったら、移動が大変だからしばらくこの部屋にしようとするかもしれないので、ちょっとでも聞きたい発表があれば飛んでいったのはうれしかった。

今回の大会では、特に若手や学生の皆さんにとっては実りが少ない学会だったのではないかと危惧しております。例えば、各分野の専門家や大御所とコネクションを作ったりアドバイスを求めたい、と思ってもオンラインでは非常に難しかったかと思います。

次回の大会がオンライン開催になったとしても、様々な世代の研究者と交流が可能な場を設けていただけると幸いです。

遠隔地にいる上一般職なのでオンサイトでの大会参加は難しい状況です。今回のようにオンラインでのプログラムが充実していると参加しやすくてうれしいです。

オンラインにも良いところがあったので（発表後にも質疑応答がオンラインでできることや、懇親会でいろいろな人と短い時間で会うことができた等）オンラインとオンサイトの併用を希望します。

学会開催時期・開催場所・方式・運営に関与するか否か、など、設問全般にわたって学生・教育機関・研究機関といった属性による利害の相違が大きいと考えられることから、意見の一致を見ろとは考えづらい。利用者目線から意見の一致を探るよりは、運営側としての意見を容れて、極力過去の「大会」の機能は維持しつつ、「運営しやすいように」していただく方向で考えることが現実的では無いかと考える。

今回の大会はポスター発表での意見交換が少なく残念だった。今後もオンラインで行う必要があるならば、他のフォーム（LINC BIZ 等）の使用を検討してほしい。

対面での会食が可能になるまでは、オンライン開催の方がよい（オンサイトのメリットは少ない）と思います。また、コロナ後も、ポスター発表（と呼ばれるかわかりませんが）はオンラインで続ける方がよいと思います。

東西2箇所くらいの固定会場（コンベンションセンター的な会場）を決め、交代で行うのが良いかもしれない。

大会の会場は分子生物学会みたいに2~4都市に固定すれば、運営側も先々の計画が立てやすい。新型コロナウイルスはCOVID-19だけで終わりではないと考えられるので、オンサイトとオンラインの併用で開催運営をお願いしたい。オンサイトも従来のすし詰め感のある座席数を減らすなど、感染症対策はしっかりしてほしい。

Q11で、「併用型で、例えば前半2日間は完全オンラインで開催し、後半3日程度はオンサイトで開催とした場合、オンサイトでどのような催しがあれば福岡会場まで行って大会参加をしますか？」という質問の回答例に私の希望はありませんでした。「懇親会」「ポスター発表」があれば行くという選択肢が必要だと思いました。オンサイトで重要な点は、対面でディスカッションできることだと思います。

併用型の場合、ホテルのWIFIに左右されるのは厳しい。会場に参加可能な程度のWIFI状況が整うなら併用も可能であると思う。また、今回は盛り上げないと悪いかと思って、ポスターにもコメントをなるべく書き込んだが、もう1年続いたら、参加は全部辞退して、その時間は論文書きでもしたほうが良いのではないかと思った。例年は学会参加による研究モチベーションの増大が起きて、それで1年テンション高く研究したけど、今年はモチベーション向上の気持ちは一切起きなかった。

オンラインでは多くのポスター発表をすべて回るのは難しかったです。レモやスパチャのような形式もよいかと思いました（人数対応できるかはわかりませんすみません）。ポスター発表と口頭発表の2カテゴリにする意味がオンラインでは薄れているように感じました。ポスター発表はじっくり議論する場を提供する意義はあると思いますが、オンサイトと同じような方向性をオンラインで実現するのは難しいようにも感じました。

子供がいるため、オンラインで参加できる大会を今後も続けてもらえると大変ありがたいです。

開催場所の問題を解決するために、オンラインを併用する方針は有りだと思います。ただし、ハイブリッド型になった場合、運営側の負担が気になります。

研究費の制限や研究日程の確保が難しく、遠方など1週間近い日程をかけて大会参加するのが難しくなってきた。そのためオンラインはコロナに関わらず、研究へのアクセスがしやすくなって助かっている。一方で、自由集会やシンポジウム後の非公式のコミュニケーションの場（懇親会など）で人脈が広がったりする効果は大きいので、コロナが解決すればオンサイトは再開するのは若い人にとっては特にいいと思う。

地方自治体公設試では年度末参加が困難なことが多いが、オンラインだったため、参加でき非常に有意義であった。野外調査中に矢原先生の受賞講演を拝聴し、大変感動した。

規模が大きくなりすぎて、運営する側はたいへんですね。ご苦労様です。

アンケートの選択肢に「その他」を設けて意見を書けるようにしていただきたいです。また、基本オンライン型（一部オンサイトあり）と完全オンライン型の参加費が同額（7,000円）に設定されている理由など、概算の根拠が示されていると回答を選択しやすいように思いました。

今回の懇親会は初参加者には知り合いのグループで固定されているようで参加しにくかったので、初参加でも入りやすい方式例えばグループをランダムに振って時間で参加グループを変更していくような形を考えてほしい。

2～3月が繁忙期なので、個人的には9～10月頃の開催がありがたいです。

難しいご検討をご苦労様です、ありがとうございます。Q16→オンサイト開催が可能な地区だけオンサイト、無理な地区はオンラインという考え方もあるかなと思いました（毎年同質のサービスを繰り返すのではなく、数年単位でイベントが一周する考え方）。個人的には北海道と九州をぜひオンサイトにしてほしいですが（食べ物がおいしいから）もちろん実情に合わせ、現実的な線でご検討されることだろうと思います。

またオンラインとオンサイトで会費が極端に違う場合、とくに若い会員間で所得によって、情報格差や人に会える機会の格差が発生しないだろうか…と、少し懸念しました。

オンライン大会は、家庭や職場の事情で出張が出来ない会員にも参加できる機会を提供するとても有意義な場だと感じました。特に、口頭発表やシンポジウムなどいつもでしたら会場を移動して他の人の頭越しに見ていた画面が、クリック一つで移動して全画面で見られるため大変良いと感じました。一方、ポスターは解錠を歩いていて目に留まった発表を気軽に聞いてみるというポスターの良さが発揮しにくくなってしまったようで少々残念でした。ポスターもポスター会場に入るとポスターが並んでいて（今回のように、題名と発表者から入るのではなく、ポスター自体が並んでいる）、気になるポスターをクリックすると議論に参加できる（発表者が待機している会議室に入る事が出来る）ような仕組みになるとポスター発表の良さが再現できるのではないかと感じました。

ただし、オンラインだけになってしまうのは、特に学生さんなど、これから生態学関係者とのつ

ながりを築いていくことになる若い人にとっては、貴重な機会が失われてしまうことが残念だと思います。他大学の同年代とのつながりも学会を通して構築し、いずれ共同研究などに発展していく可能性がある機会ですので。

難しいかもしれませんが、オンラインとオンサイトを併用して進められる道を模索できるとよいような気がします。

今回の大会はオンラインであったためか、ポスター発表や懇親会で内輪の話題で盛り上がり、外部から話題を提供したり参加することが困難であった。

今後の学会大会は、今回のように身内最顶层で閉鎖的な大会でなく、広く門戸を開き様々な分野の人と交流する場であるべきである。

3月末だと、新生活準備で忙しくなるため、3月上旬開催が嬉しく思います

例年は図書の販売をさせていただいていますが、オンラインでは内容を十分に見ていただくのが難しいと考え、今年は見合わせました。書籍展示に関しては、オンサイトの方が望ましいのですが、密集を避けるために展示数を絞るなどの工夫が必要と考えています。あらかじめ、参加者の方がご覧になりたい図書のリクエストを受けられるとありがたいです。

オンラインを含める開催方式では、どの方式もポスター発表はオンラインとなっていました、ポスター発表こそ基本的にオンサイトでやるべきだと思います（現地に行けない方々からの意見もいただくためにオンラインでの公開も併用してもよいと思います）。ポスター発表は、気軽に意見交換できる場であり、特に若手研究者にとっては人脈作りにもなる重要な機会であると考えます。今大会で、私自身はポスター発表を行いました、自身の発表でも周囲の発表でも、オンサイトの例年通りの形式の方が議論が活発化しているように感じました。緊急事態宣言等による渡航制限がある場合を除き、学会発表者は基本的にオンサイトで良いのではないかと思います。受賞講演やシンポジウムなどの大人数の集会が生じそうな場合のみ、オンラインにしてはどうでしょうか。大会の運営等大変かと思いますが、特に若手にとっては対面のコミュニケーションの方が良い可能性があることを考慮に入れていただければ幸いです。

オンラインとオンサイトを隔年で行う、と言うのもいいかと思う。

関連する学会の数が増えすぎて、全ての学会に毎回参加することが年々難しくなっているので、今回のオンライン形式は金銭面含め意外と良かった。オンラインのみで全ての発表を視聴できるオプションも併用してずっと残して欲しい。

オンラインの開催はどこでも参加できる点は非常に便利であるが、オンサイトのような人との出会いが無い事は、学会に参加する意義が半減以下になる。単に発表しましたという成果のみになりかねないのでは？チャットでの質問は確かに有意義である。できればオンライトとオンサイトで開催できると新たな学会の在り方が考えられるのでは？

ESJ68 岡山大会では、ポスター発表のタイトルを修正させてもらったが、正誤表がオンラインに掲載されるのみで、学会のポータルサイトでは修正前のタイトルが掲載されていた。オンサイトでは会場をただ歩き回り、面白そうなポスターを見つけて発表を聞くのに対して、オンラインで学会を行う場合にはタイトルだけが「面白そう」の判断材料になる。従って、修正後のタイトルが掲載されなければ、ポスターを見に来た人が、「あれ、内容思ってたのと違う」となってしまふと考えられる。タイトルの修正は期限内に行っている以上、オンラインで学会を行うなら、ポータルサイトにもそれが反映されていることが大事だと思う。

発表者としてのポスター発表の口頭発表に対する優位性は、発表者の努力次第でより多くの人と時間無制限で対話ができることだと思っています。ただオンライン形式では、参加者サイドから閲覧を促す方法がない、いつ誰がポスターを閲覧しているかを知る方法がない（こちらから話しかけられない）ので、ポスター発表の優位性はほぼ失われていると感じました。「オンラインならではの」のあり方を開発するのを感じたと共に、リスト画面でポスターのサムネイルが見られるなど、参加者を誘引しやすい仕組みがあったらより有効な場になるのではと考えています。

3月末だと、新生活準備で忙しくなるため、3月上旬開催が嬉しく思います

自分が欧州ベースであるため、時差によりオンライン参加での利益は限られてしましますが、国内研究者で育児や介護などの理由で自宅を長期間離れることが難しい方にはオンライン選択可能であることは重要だと思います。また、運営委員会の方々の苦勞が利益を上回らない場合に限りませんが、例えばシンポジウムと受賞講演等だけでも、発表内容を録画し期間限定で公開するなどが可能であれば、時差の問題も緩和できるかと思っています。

The organization and development of the ESJ 68 was very smooth. Congratulations for that!
I have a wish (maybe request): that there would be more women at least participating in the moderation of the sessions. There is an impression that mostly men were the speakers in the Symposia, Workshops and Forums, but much less or almost no moderator of sessions and/or speakers were female researchers? This impression may be wrong, but from an international point of view (since many foreigners are also part of the event), I wish that the organization committee of the ESJ would encourage the participation of more female researchers in next events.

今回、いろいろと工夫して開催して頂いたことに大変感謝します。オンサイトとオンラインはどちらもメリットデメリットがあり、オンサイトで日常業務から離れて研究に没頭できるほうが望ましい反面、オンサイト参加が困難な場合は、日常業務をこなしながら参加したい部分だけ参加できるオンラインはありがたいところもあります。参加したい内容が明確であればオンラインでも可能ですが、少し幅広く研究動向を知るにはオンサイトの方が良いと思います。他の研究者との交流は、オンラインでは難しいですね。懇親会も工夫されていましたが、個人的にはちょっと苦手です。